

令和 3 年 6 月 5 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00138

研究課題名（和文）ヴィクトリア朝における労働者教育 芸術教育をめぐって

研究課題名（英文）Art and Working Class Education in the Victorian Era

研究代表者

横山 千晶（YOKOYAMA, CHIAKI）

慶應義塾大学・法学部（日吉）・教授

研究者番号：60220571

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では19世紀イギリスの労働者教育の中での芸術教育に焦点を絞り、その内容が応用芸術やコミュニティ創造に対してどのように作用したのかについて調査した。

具体的には、労働者大学、実業工芸学校、大学拡張運動、トインビー・ホールにおける芸術教育を取り上げ、それらの中で実際に教育に関わったジョン・ラスキン、ラファエル前派、ウィリアム・モリスたちの活動を中心に当時の労働者教育の内容を調べた。そののちにそれらの教育と思想がモリス商会を中心とした応用芸術や装飾芸術にいかに関与したのかを跡付けた。

最終的に19世紀の芸術教育が、21世紀のコミュニティ再生に及ぼす影響力と意義をも考察することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

19世紀のヴィクトリア朝で展開された労働者の芸術教育は、労働者大学を中心に教養教育としての芸術観を確立することによって、大学拡張運動の芸術教育に引き継がれていったのみならず、モリス商会の活動を中心とした応用芸術の社会的な意義の確立にもつながっていった。その流れは、アーツ・アンド・クラフツ運動を引き起こすと同時に、コミュニティ創成の思想にも引き継がれ、20世紀以降の創造都市の創設や社会的包摂における芸術の意義の見直しにもつながっていった。その点から、今回の研究によってポスト・パンデミック時代におけるコミュニティ再生の在り方を考えていく手掛かりが得られたことは大きな社会的意義であると思われる。

研究成果の概要（英文）：This research has focused on working class art education in Victorian England, and how it has had an influence on decorative art and on creating communities.

The institutions and movements that were the subjects of analysis include the Working Men's College, Industrial Schools, the University Extension Movement and Toynbee Hall. The research analyzed the educational methods and contents adopted by John Ruskin, Pre-Raphaelite Brotherhood members, and William Morris, and how their educational methods and ideals impacted both decorative art and the Arts and Crafts Movement.

Furthermore, the research undertaken has revealed that art education in the Victorian Era continued to maintain its strong influence on the concept of the "creative city" in the 20th century, and indeed on the role of art in regenerating our society during the current pandemic.

研究分野：人文学

キーワード：ヴィクトリア朝 ジョン・ラスキン 労働者大学 モリス商会 大学拡張運動 トインビー・ホール
ホワイトチャペル・アートギャラリー パンデミック時代における芸術の意義

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

横山千晶

基盤研究(C) 「ヴィクトリア朝における労働者教育 芸術教育をめぐって」

課題番号 18K00138

1. 研究開始当初の背景

研究者は今回の研究開始前に、ヴィクトリア朝におけるジョン・ラスキンとウィリアム・モリスを中心とした、芸術と社会思想の関係について研究を深めてきたが、平成17年より、トインビー・ホールにおける大学セツルメント運動とロンドンのイースト・エンドで展開された芸術活動を調査するうちに、東欧からの移民の多いロンドン東部で、芸術家の協力を得て始まった芸術活動とそれに伴う芸術教育が、コミュニティの創造に多大な影響力を発揮して現代にいたっていることをあらためて理解することとなった。その中でも特にラスキンとモリスの社会思想がいかに労働者の教育と大学拡張運動と連携していた大学セツルメント運動に影響を与えていたのかを知ったことは、新たな研究テーマを切り開くきっかけとなった。それらの研究を経て平成28年より、労働者教育におけるリベラル・アーツとしての芸術の意義を研究テーマに定めて、調査に取り組むに至った。

2. 研究の目的

ヴィクトリア朝における労働者を対象とした芸術教育を、以下の4つを主要なテーマから調査することで、当時の芸術教育の内容とその思想的背景、および影響を探ることを目的とした。

- (1) 1854年にロンドンで開講した労働者大学を中心とした素描教育の内容と意義
- (2) 労働者大学の素描クラスとモリス商会の関係
- (3) 大学拡張運動の中での芸術教育とジョン・ラスキンの影響
- (4) 19世紀の労働者に対する芸術教育が20世紀と21世紀の芸術と教育、およびコミュニティの創成に与えた影響

(1)のテーマについては労働者大学の実際のカリキュラムと学生たちの反応、その後の活動を調査することを通して、教育の社会的な意義を探ることを目的とした。その上で(2)のテーマでは労働者大学の芸術教育が1861年設立のデザイン商会であるモリス商会の設立とどう関係を持っていたのかを調査することで、教育と実践の関係を探ることを目的とした。

労働者大学の研究に続いて、(3)ではジョン・ラスキンの芸術教育思想が、大学拡張運動の中での芸術教育とどのような関連を持ち、どのような展開を見せたのかを調査し、リベラル・アーツとしての芸術教育の発展を跡付けることを目的とした。

(1)～(3)の研究を経て、(4)では19世紀の芸術を中心とした労働者教育が、20世紀以降の芸術観にどのような影響を与えているのかを調査することで、現代、特にパンデミック時代を生きる我々にとっての芸術の社会的な意義を、歴史の中で再確認し、次世代の教育とコミュニティの再生へとつなげる視点を導くことを目的とした。

3. 研究の方法

3年間を通しての研究は、調査対象とした機関や運動(労働者大学、実業工芸学校、モリス商会、大学拡張運動、トインビー・ホール、ホワイトチャペル・アートギャラリー)の関係資料を現地で調べることを中心として進めた。同時にまとめた成果は随時関係学会で発表し、ほかの研究者からのフィードバックを得て、論文や単著にまとめることを目指した。具体的な研究方法は以下のとおりである。

(1)労働者大学の調査については、現在の労働者大学図書館での調査と資料研究と共に、同大学の19世紀当時の資料を所蔵するロンドン・メトロポリタン・アーカイブスにて調査を行った。

(2)モリス商会の調査に関しては、ロンドンのウィリアム・モリス・ギャラリーでの調査と同時に、モリス商会と関係のあった実業工芸学校の調査をホルボーン図書館にて進めた。

(3)大学拡張運動に関しては、ケンブリッジ大学の大学図書館(ユニバーシティ・ライブラリー)に保管されている大学拡張運動関係の資料を中心に研究を進めた。

(4)トインビー・ホールとホワイトチャペル・アートギャラリーに関する調査は、現在のホワイトチャペル・ギャラリーの図書館に所蔵されている資料を調査することで進めた。

(5)また、研究成果は国内外の学会で発表することにより、ほかの研究者との意見交換を行うことで精度を高め、その結果を論文や単著にまとめていった。

4. 研究成果

2.の研究の目的に沿って行った調査の成果は以下のとおりである。

(1)の労働者大学を中心とした素描教育の内容と意義については、労働者大学のカリキュラム

の中で、講師たちが実践的な技術の伝達と並行してリベラル・アーツとしての芸術の思想と議論を展開していたことが明らかになった。また、ラファエル前派兄弟団関係のメンバーたちが講師陣を務める時期は、装飾デザインを手掛ける商会、モリス商会を設立しようとしていた時期と重なることから、その関連性をリサーチし、労働者大学と商会の連携が今までの研究で明らかになっている以上に密であることが判明した。

その成果を受けて(2)のテーマ、労働者大学とモリス商会の関係の調査では、モリス商会の初期の職人たちの数名が労働者大学の素描クラスの学生たちであったことが判明した。またそのほかの職人たちも、雇用と同時に労働者大学で素描を学びはじめていたことも明らかになった。これらの発見によって職業と教育の相互関係がより密に図られていることが確認されると同時に、具体的な職人たちの個人的な情報の調査を進めることで、商会での雇用後の彼らの芸術家としての活動などから、より明確に教育と実践の関係が把握できた。

以上の労働者大学の研究に続いて、(3)の大学拡張運動の調査では、同運動の中でジョン・ラスキンの芸術教育論が「教養」の視点に重心を移されることで、歴史と文学の教育に対して大きな影響を与えていることが明らかになった。より具体的に教養教育的な側面が前面に押し出されることとなったのが、大学拡張運動での芸術教育である。このことから、ヴィクトリア朝の芸術教育の実践面と教養教育の双方を労働者教育の視点から見据えることが可能となった。

最終的に(4)の19世紀の労働者に対する芸術教育が20世紀と21世紀の芸術と教育に与えた影響の研究では、次の二つの点からその影響を探った。一つ目はトインビー・ホールの芸術教育の一翼を担ったホワイトチャペル・アートギャラリーで1914年に開催された「20世紀の芸術展」に焦点を絞り、当時の館長のギルバート・A・ラムゼイとイースト・エンドの若い芸術家たちがいかにして新たな芸術観をイギリスに持ち込んだのかについて探ることで、前世紀のラスキンたちの芸術論の影響を跡付けた。二つ目は、パンデミック時代を迎えた私たちにとって、19世紀の芸術教育と創造力をめぐる思考がどのような意義を持ちうるのかについて調査し、今後の提言を行うことができた。調査では20世紀以降のイギリスの創造産業や文化政策、およびスポーツの祭典としてのオリンピックと併行して行われている文化オリンピックの伝統などを研究し、あらためて現在の私たちの文化政策を批判的に評価しなおすことで、ラスキンやモリスたちが唱えた芸術の意義は、パンデミック時代を生きる我々にとって、世界的に重要なメッセージを含んでいることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Chiaki Yokoyama	4. 巻 2
2. 論文標題 John Ruskin and Albert Goodwin: Learning, Working and Becoming an Artist	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Restauro Archeologico: Special Issue on "Memories on John Ruskin: Unto this Last"	6. 最初と最後の頁 218-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chiaki Yokoyama	4. 巻 3
2. 論文標題 John Ruskin and the Two Cultures Debate: Victorian Art Education in the University Extension Movement	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of the Asian Conference of Design History and Theory	6. 最初と最後の頁 110-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chiaki Yokoyama	4. 巻 12
2. 論文標題 From Drawing to Design--John Ruskin's Teaching and Morris & Co.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Back to the Future, The Future in the Past (ICDHS 10th +1, Barcelona 2018: Conference Proceedings Book)	6. 最初と最後の頁 570-574
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件/うち国際学会 5件）

1. 発表者名 横山千晶
2. 発表標題 モリス商会と職人たち 美を伝えるということ
3. 学会等名 本ヴィクトリア朝文化研究学会第20回大会シンポジウム「芸術のための芸術/世界のための芸術 開かれた唯美主義の形態」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 横山千晶
2. 発表標題 ホワイトチャペル・ギャラリーの「20世紀の芸術」展（1914年）再考
3. 学会等名 第61回 意匠学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chiaki Yokoyama
2. 発表標題 John Ruskin and the Two Cultures Debate: Victorian Art Education in the University Extension Movement
3. 学会等名 Asian Conferene of Design History and Theory (ACDHT Fukuoka 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chiaki Yokoyama
2. 発表標題 Morris & Co, and the Industrial School at 44 Euston Road: Employing Destitute Boys
3. 学会等名 Goodness, Truth, and Beauty in the Work of John Ruskin and his Contemporaries (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chiaki Yokoyama
2. 発表標題 John Ruskin and Albert Goodwin: Learning, Working and Becoming an Artist
3. 学会等名 Memories on John Ruskin: Unto this Last (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横山千晶
2. 発表標題 労働者大学とモリス商会 教育からデザインの現場へ
3. 学会等名 意匠学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chiaki Yokoyama
2. 発表標題 From Drawing to Design--John Ruskin's Teaching and Morris & Co.
3. 学会等名 International Conference on Design History and Studies 10th +1 Barcelona 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横山千晶
2. 発表標題 名もなき工芸家たち モリス商会を支えた人々
3. 学会等名 第3回ウィリアム・モリス研究会(意匠学会デザイン史分科会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chiaki Yokoyama
2. 発表標題 Connecting Artists and Artisans: John Ruskin, the Working Men 's College, and the Morris & Co.
3. 学会等名 Mediating Ruskin: Through a Kaleidoscope Brightly (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 横山千晶	4. 発行年 2021年
2. 出版社 慶應義塾大学教養研究センター（制作 慶應義塾大学出版会）	5. 総ページ数 152
3. 書名 コミュニティと芸術 パンデミック時代に考える創造力	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------